

育樹から木のある暮らしをつないで

第42回

# 全国育樹祭

TOKYO 2018



## 基本計画

東京都

# 目 次

## 第 1 章 開催概要

1 全国育樹祭の目的 .....	3
2 開催方針 .....	3
3 大会テーマ .....	6
4 シンボルマーク .....	6
5 大会ポスター原画 .....	7
6 開催概要 .....	8

## 第 2 章 お手入れ行事計画

1 基本的な考え方 .....	10
2 お手入れ行事の概要 .....	10
3 お手入れ会場計画 .....	12

## 第 3 章 式典行事計画

1 基本的な考え方 .....	15
2 式典行事の概要 .....	15
3 式典会場計画 .....	17
4 TOKYO 展示・販売コーナー .....	20
5 懇談会 .....	21

## 第 4 章 育樹行事計画

1 基本的な考え方 .....	22
2 育樹行事の会場 .....	22

## 第 5 章 併催行事計画

1 育林交流集会 .....	24
2 全国緑の少年団活動発表大会 .....	24

## 第 6 章 記念行事計画

1 森林・林業・環境機械展示実演会 .....	26
2 その他の記念行事 .....	27

# 目 次

## 第 7 章 運営計画

1 基本的な考え方 .....	28
2 実施本部計画 .....	28
3 参加者計画 .....	28
4 参加者行動計画 .....	29
5 受付計画 .....	31
6 大会用品・記念品等 .....	31
7 宿泊・輸送計画 .....	32
8 昼食計画 .....	34
9 医療・衛生計画 .....	35
10 消防・防災・警備計画 .....	36
11 リハーサル計画 .....	37
12 雨天・荒天時対応計画 .....	38

## 第 8 章 広報・協賛計画

1 基本的な考え方 .....	39
2 広報・PR計画 .....	39
3 協賛計画 .....	40
4 記録 .....	40

## 第 9 章 開催準備計画

1 基本的な考え方 .....	41
2 開催準備スケジュール .....	41

## 1 全国育樹祭の目的

全国育樹祭は昭和52年から毎年秋季に行われている国民的な森林・緑の祭典です。天皇皇后両陛下がお手植えされた樹木を皇族殿下がお手入れされる育樹活動のシンボリック行事と、皇族殿下によるお言葉や各種表彰等の式典行事等を通じ、健全で活力ある森林を育て、次の世代に引き継ぐことの大切さを伝えていきます。

## 2 開催方針

東京は、江戸幕府が開かれて以降400年にわたり、日本の中心として発展を続ける、世界有数の大都市です。古くから森林や木材と深くかかわり、都市づくりの資材・燃料として森林の恵みを大いに利用してきました。

しかし近年、都市の膨張による森林の減少、生活様式の変化等により、それらは私たちの生活から遠い存在となりました。このような中、東京都は、「森がささえる暮らし、都市がはぐくむ緑とうきょうしんりんせいかつ－東京森隣生活」をテーマとして、平成8年に全国植樹祭を開催しました。これを契機に、森を守り育て、普段の生活の中にも森を意識する機会を創出するなど、都民の中に広く森づくりに対する機運の醸成を進めています。

このとき、会場となった「海の森」は、その後も植樹が続けられ、海に浮かぶ美しい森に生まれ変わろうとしています。また、私たちの身近な公園や街路樹等の緑は拡大し、都市に住む人々にうるおいと安らぎを与えています。

一方、都市の上流に位置する森林は、木材の供給だけでなく、水源のかん養や災害の防止、二酸化炭素の吸収、レクリエーションの場の提供等の多面的な機能により都民生活に貢献しています。また、子供たちを中心とした木育活動等の環境教育、CSR活動やボランティア活動の場としても活用されています。今後もこれらの機能を十分に発揮するためには、適切な森林整備により伐採・利用・植栽・保育という循環を継続するとともに、循環の一翼を担い、中心となって森林を守り続けていく林業の振興が不可欠です。

しかし、東京の森林はその多くが、すでに伐採、更新の時期を迎えているにもかかわらず、長期にわたる木材価格の低迷等により、伐採が進まず、木材として活用されていません。森林の循環が停滞することで、林齢構成が高齢の樹木に偏り、特に奥地では手入れが行き届かない森林が増加しています。また、急峻な地形が多いという制約によりコスト削減が進まず、森林・林業の担い手不足も一層深刻化するなど、多くの課題を抱えています。

そこで、都は、スギ林の伐採・更新を行うスギ花粉発生源対策や林道等基盤整備など、森林の整備保全と林業振興を図るため、様々な対策を講じるとともに、「とうきょう林業サポート隊」や「とうきょう森づくり貢献認証制度」など、都民や企業が積極的に森づくりに参加できる仕組みを構築してきました。今では、停滞していた伐採や材の搬出、植栽による森林の更新が促進されるなど、森林・林業の再生に向けた循環が動き始めています。

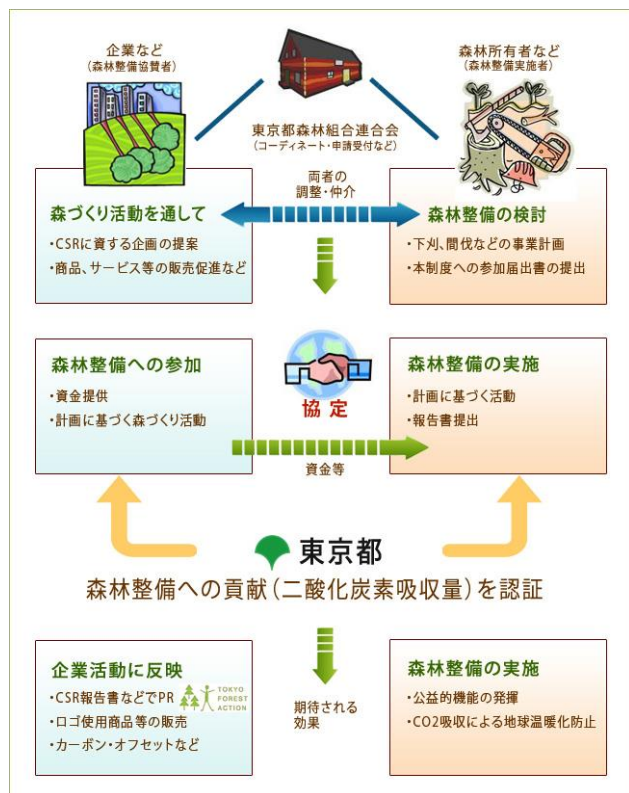
この循環を再び停滞させないため、木材の大消費地である東京が、多摩産材を始めとした全国各地の木材の利用を拡大していかなければなりません。

第42回全国育樹祭では、森づくりに対する機運の醸成を一層進めるとともに、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の関連施設等での木材の利用推進と合わせ、「木の良さ」、「木の価値」を全国に発信し、そのかけがえのない存在を国民一人ひとりに深く浸透させていきます。

多様な地域を有する都が、幅広い主体の参加や人材の育成を通じ、それぞれの地域にふさわしい森づくりや緑化推進に取り組むことにより、東京を緑豊かな活力ある大都市として、次世代に引き継いでいくための行事として開催します。

「とうきょう林業サポート隊」による育樹活動

「とうきょう森づくり貢献認証制度」のしくみ



【 第42回 全国育樹祭の開催 】

森が果たす役割やその大切さ、木の良さ・木の価値を広く発信

森づくり・木材利用への機運を醸成

幅広い主体の参加・人材の育成

地域にふさわしい森づくり・  
緑化推進への取組

森林の循環が促進

東京を緑豊かな活力ある大都市として次世代に継承

第47回全国植樹祭（東京都開催）について

東京都では、森と都市の関わりを見つめ直し、森と人との新たな共生関係を築き上げていくための機会として、平成8年に天皇皇后両陛下の御臨席を賜り、「第47回全国植樹祭」を開催しました。

【開催概要】

開催テーマ：森がささえる暮らし、都市がはぐくむ緑—東京森隣生活 とうきょうしんりんせいいかつ

開催日：平成8年5月19日（日曜日）

参加者：約12,000人

会場：・山の森・・・檜原都民の森  
・街の森・・・辰巳の森海浜公園  
・海上の森・・・中央防波堤内側埋立地 の3箇所で実施



天皇皇后両陛下によるお手植え（海上の森）



天皇皇后両陛下によるお手まき（街の森）



3 大会テーマ

# 育樹から 木のある暮らし つないでく

はぶち としのぶ  
作者 羽瀨敏伸さん（東京都渋谷区）

（講評）

樹を育てることによって、木のある暮らしが守られ、次代につながっていくことを表現しています。

木を身近なものとする私たちの日常の生活が森林循環の一翼を担い、森林を守ることに繋がっていくというメッセージが感じられます。

4 シンボルマーク

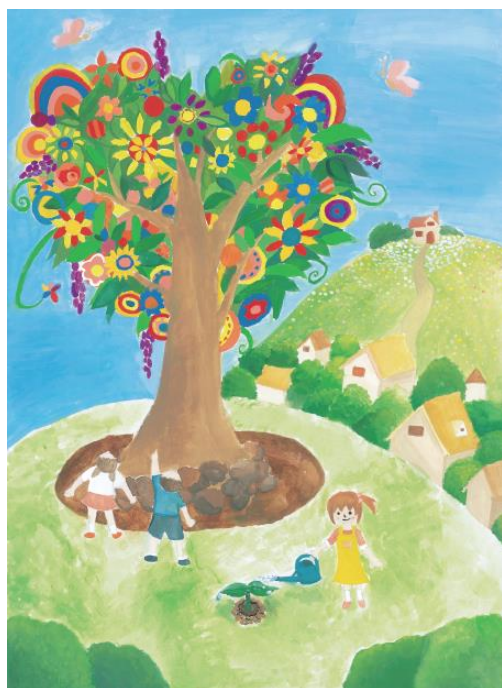


もりひでお  
作者 盛秀雄さん（青森県青森市）

（講評）

「TOKYO」の文字を葉脈にさりげなく入れつつ、デザイン全体で森林の循環を上手に表現しています。普段の生活の中で育樹に親しみ、森を守っていこうという想いが感じられる作品です。

## 5 大会ポスター原画



作者 かまなか ことみ 鎌仲思実さん（練馬区立開進第三中学校2年）[応募時]

## （講評）

明るい作風で仕上げられており、ポスターにした時の華やかさやインパクトを感じます。

子供らしい雰囲気の中でも、しっかりと育樹が表現されており、未来に向かっていく距離感なども上手に組み込まれています。大会テーマとの相性もよく、ポスターとしてふさわしい作品です。

## （参考）各作品の応募状況

部 門	募集期間	応募総数（作品）
大会テーマ	平成28年4月11日～6月10日	622
シンボルマーク	平成28年4月11日～6月10日	463
ポスター原画	平成28年7月1日～9月10日	614

- ◆ 全国から多数の作品をお寄せいただきました。
- ◆ 各部門において、2回にわたる審査会を行い、選考・決定しました。
- ◆ シンボルマークについては、候補作品に対して都民の皆様からもご意見をいただき、審査の参考としました。



## 6 開催概要

### (1) 全国育樹祭行事

- 主催／東京都、公益社団法人国土緑化推進機構
- 開催時期／平成30年秋季〔開催期日の決定・発表：平成30年1月（予定）〕
- 参加人数／約5,000人〔式典行事〕
- 内容／
  - お手入れ行事 海の森公園予定地（中央防波堤内側埋立地）
  - 式典行事 武蔵野の森総合スポーツプラザ（調布市）
    - ・皇族殿下のおことば
    - ・緑化功労者等の表彰
    - ・緑の少年団活動の発表
    - ・メインアトラクション
    - ・大会宣言など

### (2) 育樹行事

- 育樹行事 都立舎人公園（足立区）  
都立武蔵野公園（府中市・小金井市）  
檜原都民の森（檜原村）

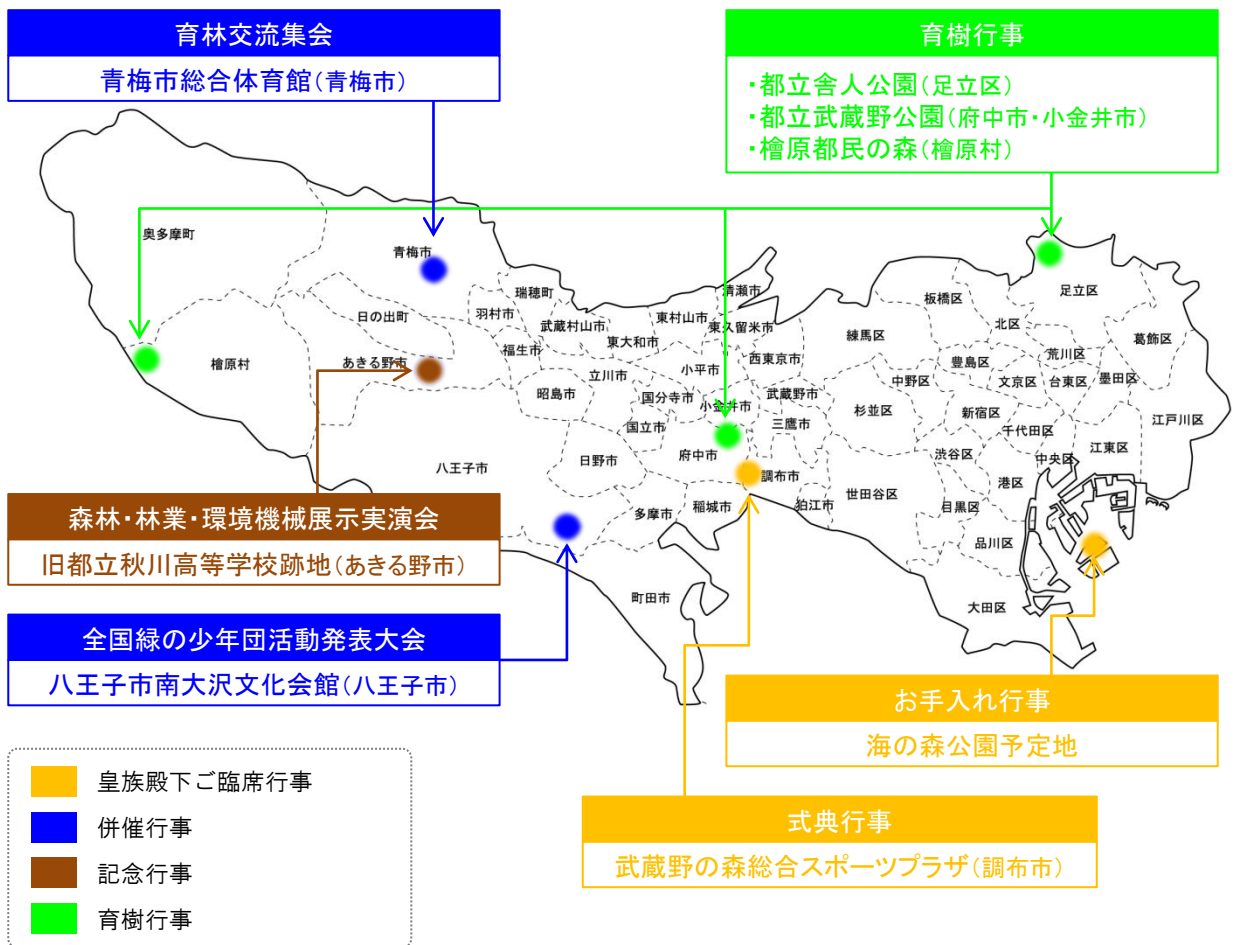
### (3) 併催行事

- 育林交流集会 青梅市総合体育館（青梅市）
- 全国緑の少年団活動発表大会 八王子市南大沢文化会館（八王子市）

### (4) 記念行事

- 森林・林業・環境機械展示実演会 旧都立秋川高等学校跡地（あきる野市）
- その他の記念行事

# 第1章 開催概要



## 【 行事日程のイメージ 】

平成30年			
式典1月前	(10月~11月)		
	式典前日(土曜日)	式典当日(日曜日)	式典翌日(月曜日)
育樹行事	お手入れ行事 (皇族殿下ご臨席)	式典行事 (皇族殿下ご臨席)	
	育林交流集会	森林・林業・環境機械展示実演会	
	全国緑の少年団 活動発表大会		

## 1 基本的な考え方

平成8年「第47回全国植樹祭」から約20年が経過し、当時何もない埋立地であった会場は、植樹した木々が成長した立派な森に生まれ変わっています。これらの木立の中で、天皇皇后両陛下がお手植えされた樹木を皇族殿下にお手入れしていただき、「森林を育て次の世代に引き継ぐこと、親が植え子が育てること」の象徴的行事として、全国育樹祭の開催理念を全国に発信します。今後、行事開催に向け、会場及びその周辺において、歩道の整備、駐車スペースの確保など、必要な整備を行います。

## 2 お手入れ行事の概要

(1) 開催日／式典行事の前日

(2) 行事参加者／約200人

区 分	人 数
特定参加者	約20人
その他の参加者	約80人
ボーイスカウト、ガールスカウト等	約50人
実施本部員等	約50人
合 計	約200人

(3) 会場／海の森公園予定地（中央防波堤内側埋立地）



「お手入れ会場」海の森公園予定地（中央防波堤内側埋立地）

※「海の森」とは、東京港の中央防波堤内側に位置する埋立地に、都民・企業・NPO等との協働による植樹を行うことにより、様々な動植物が息づく海に浮かぶ美しい森に生まれ変わらせる、循環型社会のシンボルとなるものです。今後、公園として開園する予定です。

### (4) お手入れ行事次第

皇族殿下 御着
第47回全国植樹祭パネル 御覧 <small>ぎよせい</small> 御製の碑 御覧 (説明：都知事) お手植え樹木の生育状況 御聴取
お手入れ
介添え者等へのお声かけ
皇族殿下 御発

(15分程度)

#### ■ お手入れ内容

- お手入れ対象樹木 【樹種】 イチョウ、スダジイ、オオシマザクラ  
(天皇皇后両陛下お手植え樹木)
- 【樹齢】 23年生 (平成30年秋季時点)
- お手入れ内容 皇族殿下による枝打ち、施肥



お手入れ行事 (枝打ち) / 群馬県の例



お手入れ行事 (施肥) / 山形県の例

### お手植え樹木について

#### <イチョウ>

イチョウ科の落葉針葉樹で、1億年前から生きのびており、生きている化石といわれています。「都の木」に指定され、都内には「神宮外苑のイチョウ並木」などのイチョウの名所が数多くあります。

#### <スダジイ>

ブナ科の常緑広葉樹で武蔵野の各地に植えられており、伊豆諸島では群集を形成しています。枝を大きく広げた姿は、重厚で落ち着いた雰囲気があります。

#### <オオシマザクラ>

バラ科の落葉広葉樹であり、名前は伊豆大島に由来します。春には白い花と若葉が同時に開き、その調和が美しいサクラです。日本各地で広く親しまれているソメイヨシノは、オオシマザクラとエドヒガンをかけあわせたものです。



### (5) 育樹行事

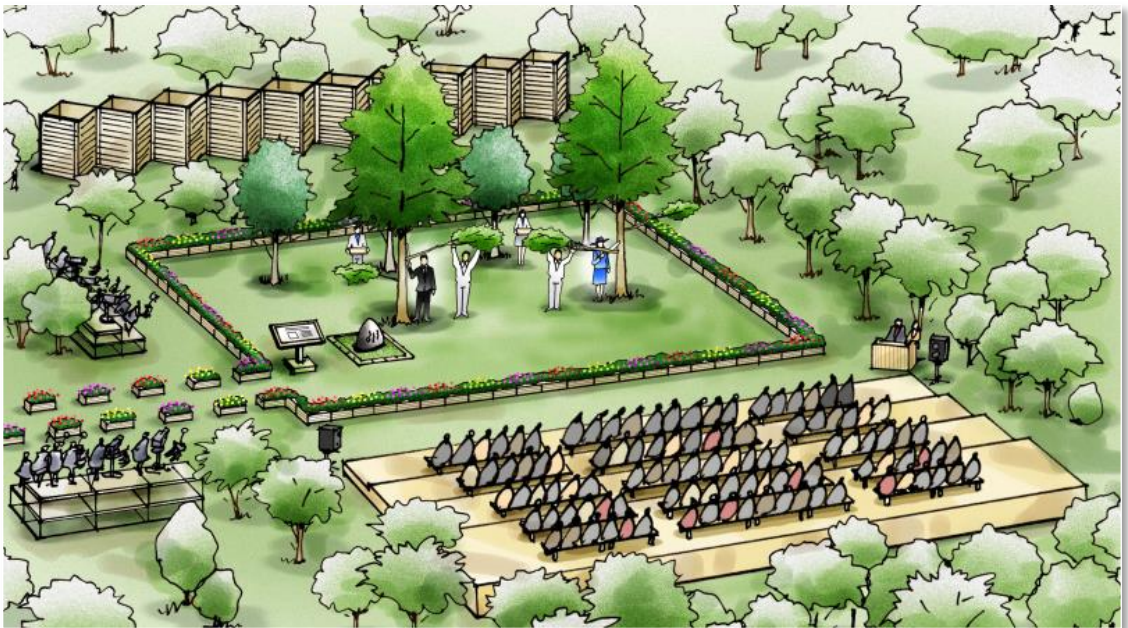
特定参加者等は、皇族殿下のお手入れの前に会場内で、育樹行事を行います。

## 3 お手入れ会場計画

海の森公園予定地内にある植樹地は、植樹した木々が成長した立派な森となっています。会場や歩道、駐車場の整備等に当たっては、これらの雰囲気損なわないように、周辺の景観・環境に十分に配慮します。必要最低限としながらも、安全で快適に参加できる会場づくりを行います。

### (1) 会場整備

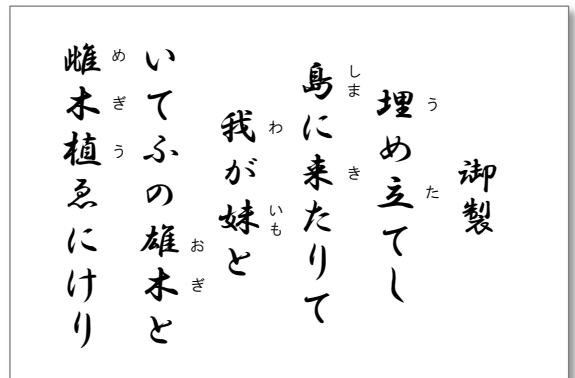
- 会場となる海の森公園予定地内の植樹地の樹木を対象に、間伐を行います。
- 皇族殿下がお歩きになる歩道を整備し、木材チップ等で舗装します。
- 駐車スペースを確保するため、現駐車場を利用するほか、新たに必要最低限の駐車場を整備します。
- 会場及び周辺の美化を行います。



お手入れ会場イメージ



ぎよせい  
御製の碑とお手植え樹木（イチヨウ）



御製（第47回全国植樹祭において天皇陛下が詠まれた和歌）

### (2) 会場設営

- テントなど仮設する施設は必要最低限なものにとどめ、適切な規模（数・大きさ）となるように計画します。
- 仮設工作物は多摩産材等を利用するとともに、安全性、経済性及び周辺の景観に配慮したものとします。



仮設テント／岐阜県の例



全国植樹祭説明パネル／京都府の例

### (3) 飾花計画

- 会場及び周辺の飾花は、都内産の花を使用し、会場の雰囲気を引き立てるとともに、参加者の安全かつ円滑な動線が確保できるように配置します。
- 多摩産材等を用いて作成したプランターケースを使用します。



プランターケース／京都府の例



### (4) 案内・誘導計画

- 参加者が安全かつスムーズにお手入れ行事に参加することができるよう、案内サインを設置します。
- サインは、ユニバーサルデザインに留意し、参加者が見やすい色彩、大きさにするとともに、見やすい位置、高さに設置します。また、ピクトサイン（絵文字）を使用するなど、参加者が一目で分かるサインとします。
- サインには、多摩産材のほか、リユース可能な製品の活用等、環境に配慮した資材を使用します。

### (5) 電気設備・給排水・通信設備計画等

- 電気設備計画  
既存の電源がないことから、仮設電源で対応します。
- 給排水計画  
既存の水道がないことから、必要な給水を行うとともに、排水については回収し、適正に処理します。
- 仮設トイレ計画  
必要な数量の仮設トイレを設置します。また、衛生面も十分配慮します。
- 通信設備計画  
行事を円滑に運営するため、実施本部員のうち各係の責任者や必要となる係員に携帯電話・トランシーバーを配備します。

## 1 基本的な考え方

- 第42回全国育樹祭の大会テーマ「育樹から 木のある暮らし つないでく」の理念をわかりやすく伝え、森づくりや木を使うことの大切さを広く全国に発信できるものとしてします。
- 式典は、簡素化を図りながらも、厳粛で品格のあるものとしてします。
- 入退場時における待機時間を見直すなど、所要時間の短縮を図ります。
- 式典には、森林・林業関係者をはじめ、次代を担う青少年やボランティア、公募による参加者など、各界各層から幅広く参加できる行事としてします。
- アトラクションは、プロジェクションマッピング等の映像システム、新しい照明技法や特殊効果を取り入れた照明システム、響きが良く聞きやすい音響システム等を効果的に組み合わせるなど、屋内会場であるメリットを活かした演出を行います。

## 2 式典行事の概要

(1) 開催日／平成30年秋季の日曜日

(2) 行事参加者／約5,000人

区 分	人 数
都内参加者	約2,500人
都外参加者	約1,000人
実施本部員、出演者等	約1,500人
合 計	約5,000人

(3) 会場／武蔵野の森総合スポーツプラザ（調布市）

屋内施設であるため、荒天時の式典会場は別に設けません。



「式典会場」武蔵野の森総合スポーツプラザ（調布市）

※「武蔵野の森総合スポーツプラザ」は、東京都のほぼ中央に位置し、国際的・全国的な大規模スポーツ大会が開催可能であるほか、イベント等にも利用可能な機能を備えた、多目的アリーナです。調布基地跡地の一角をなし、周辺には、緑豊かな武蔵野の森公園や味の素スタジアムをはじめとするスポーツ施設、調布飛行場等があります。

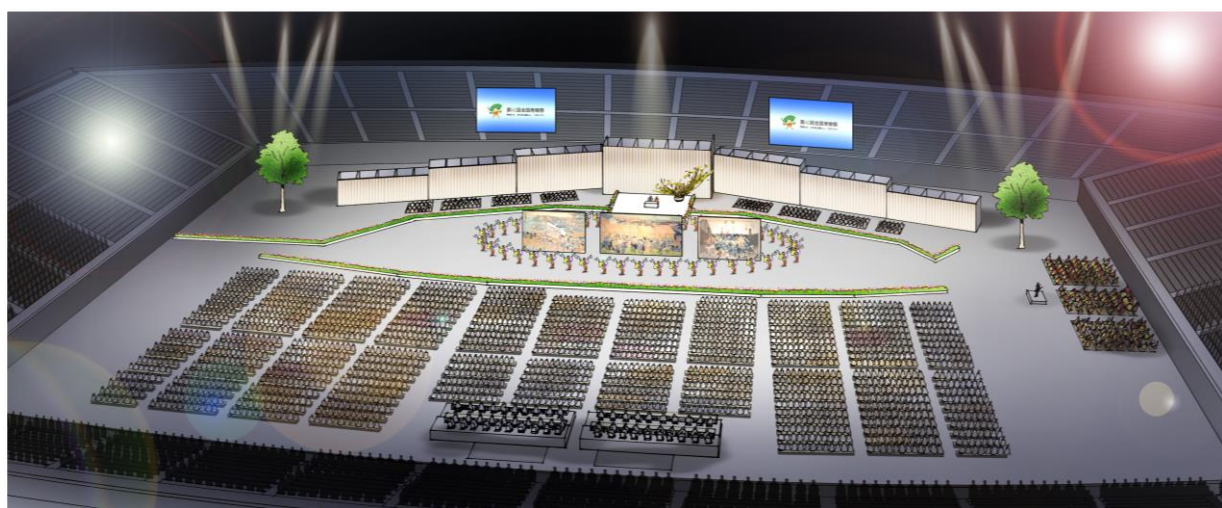
(4) 式典行事次第

プロローグ	
オープニングアトラクション	全国からの参加者を歓迎する気持ちを込め、東京都の魅力を紹介
お手入れ行事(前日)紹介映像	
東京都紹介映像	
式典	
皇族殿下 御着	
開会のことば	国土緑化推進機構 副理事長
三旗入場	
三旗掲揚・国歌斉唱	
主催者あいさつ	大会会長（参議院議長）、東京都知事
歓迎のことば	東京都議会議長
皇族殿下のおことば	
表彰	緑化功労者等への表彰
緑の贈呈	農林水産大臣から緑の少年団へ贈呈
緑の少年団活動発表	
メインアトラクション	開催方針や大会テーマを具体的なメッセージとして表現
大会宣言	国土緑化推進機構 理事長
次期開催県あいさつ	
閉会のことば	調布市長
皇族殿下 御退席	
エピローグ	
エンディングアトラクション	森づくりに向けた想いを参加者が共有し、未来につないでいくためのメッセージを発信

### 3 式典会場計画

#### (1) 会場整備

- 式典会場は、既存の施設である「武蔵野の森総合スポーツプラザ」を使用し、低コスト化を図りつつ、屋内会場の特性を活かした会場づくりを行います。
- 森林・林業の祭典にふさわしく、多摩産材等を積極的に活用した設営・装飾を行います。
- 安全性や機能性を考慮するとともに、誰もが安心して参加できるよう、きめ細かい配慮をします。



式典会場イメージ

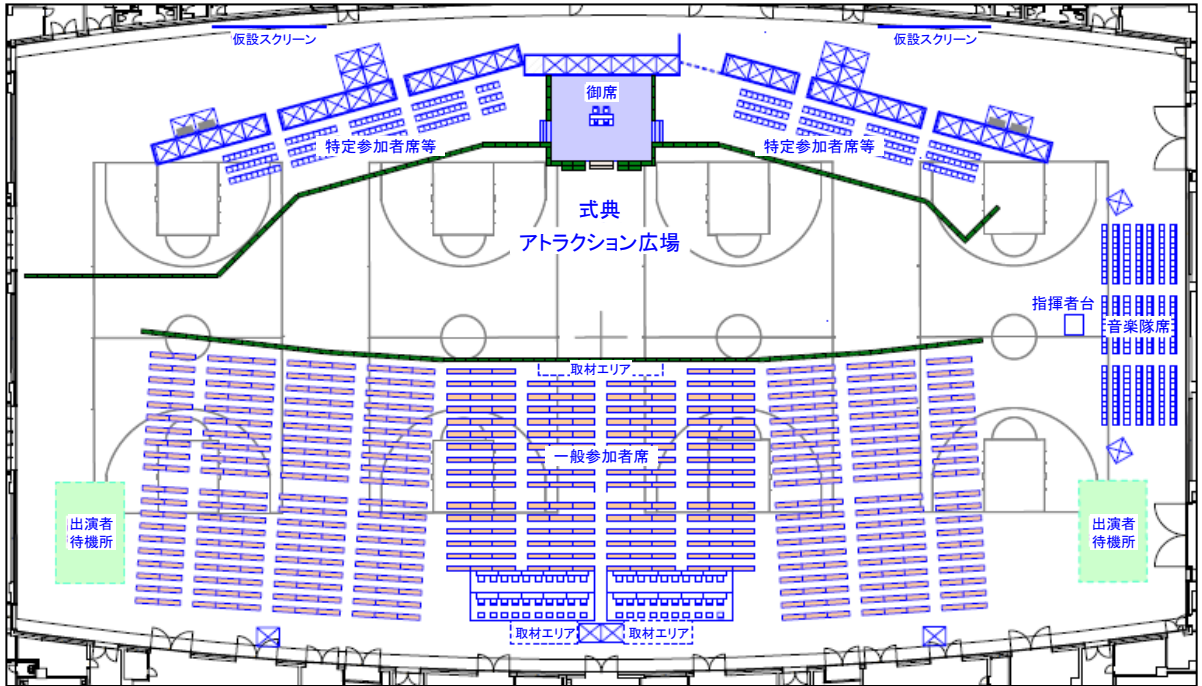
#### (2) 会場設営

- 御席
  - 御席は、皇族殿下がご臨席になられるにふさわしく、式典会場のシンボルとなるよう計画します。
  - 会場全体との調和を重視し、一体感のあるデザインを計画します。
  - バックパネルは多摩産材を使用します。

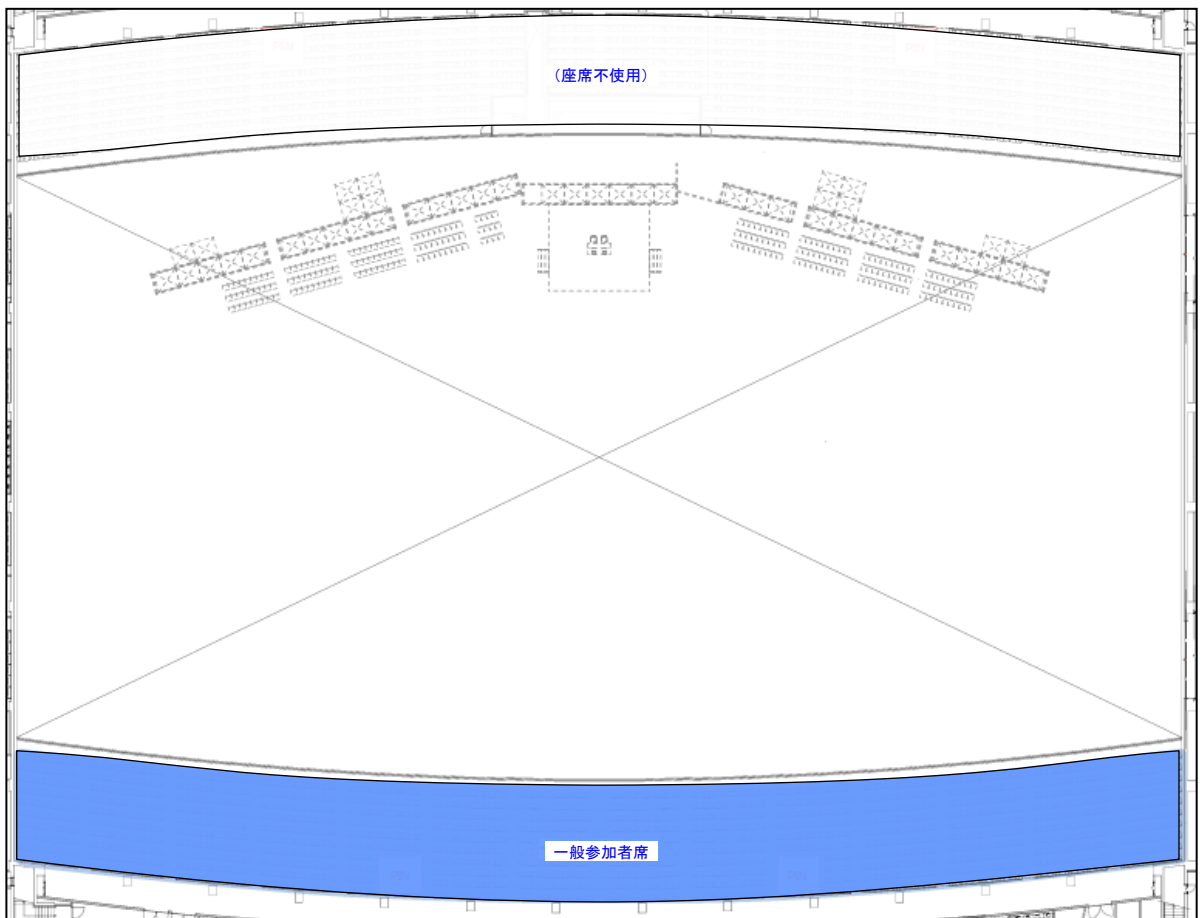


御席／京都府の例

### 第3章 式典行事計画



式典会場内レイアウトイメージ（1階部分）

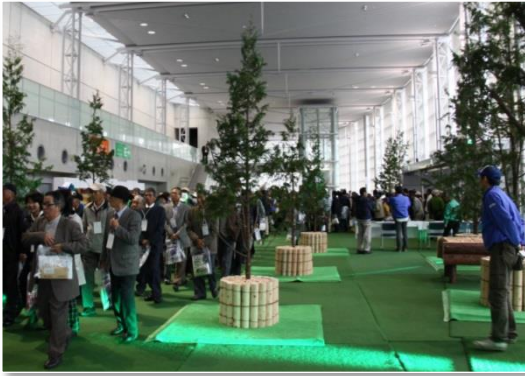


式典会場内レイアウトイメージ（3・4階部分）



### ■ 仮設工作物

- 仮設工作物は多摩産材等を使用するとともに、安全性、経済性に配慮したものとします。
- 会場全体との調和を重視した、デザインを計画します。
- 会場エントランス、ベンチ、バックパネル等を作成し、適正に設置します。



会場エントランス／静岡県の例



木製ベンチ／京都府の例

### (3) その他

#### ■ 飾花計画、案内誘導計画

お手入れ行事と同様に、必要な対応を行います。

#### ■ 電気設備計画

既存設備で不足が生じる場合には、仮設電源を設置し、対応します。

#### ■ 給排水計画

水は既存の水道から給水し、排水は適正に処理します。

既存の給排水設備がない場所では、必要な対応を行います。

#### ■ 仮設トイレ計画

既存の施設で不足が生じる場合には、必要な数量の仮設トイレを設置します。

また、衛生面も十分配慮します。

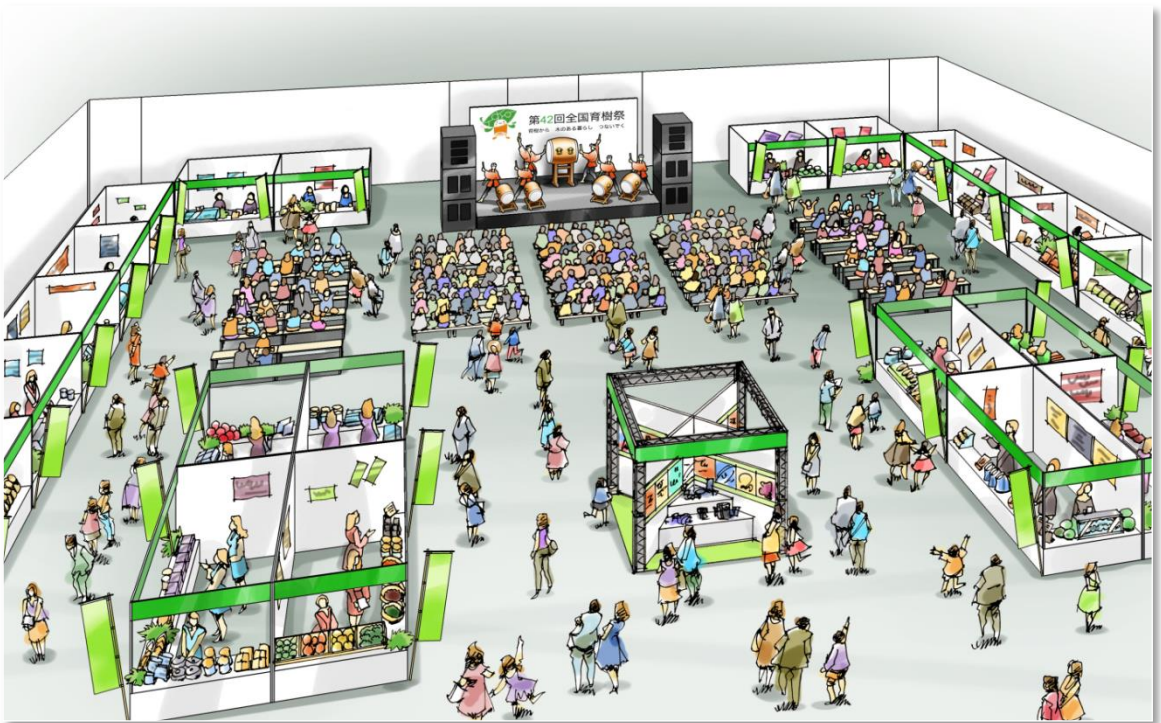
#### ■ 通信設備計画

行事を円滑に運営するため、実施本部員のうち各係の責任者や必要となる係員に携帯電話・トランシーバーを配備します。



4 TOKYO展示・販売コーナー

- 式典会場にTOKYO展示・販売コーナーを設けます。東京都の森林・林業や観光情報等を紹介する展示コーナー、特産品等を販売する販売コーナーのほか、参加者が安全・安心・快適に過ごせるよう、総合案内所や湯茶提供ブースを設置します。
- TOKYO展示・販売コーナーの運営にあたっては、出展者等との協力により、廃棄物の減量化に取り組みます。また、飲食物を提供する際に環境に配慮した容器を使用するなど、環境に優しい運営に努めます。



TOKYO展示・販売コーナーイメージ

● 展示コーナー

東京都の森づくり活動や木の活用に向けた取組についての展示・紹介、多摩・島しょ地域の観光案内等を行います。

● 販売コーナー

木を使った工芸品、都内の特産品や飲食物等について、紹介・販売を行います。



岐阜県の例

- ミニステージ

東京の伝統芸能の実演やヘブンアーティスト等によるパフォーマンスを行います。

- その他

総合案内所、湯茶提供ブース、休憩所等を設け、参加者がくつろげる運営に努めます。



京都府の例

## 5 懇談会

皇族殿下のご臨席を仰ぎ、大会関係者を招待して懇談会を開催します。

- 主 催／東京都
- 開 催 日／式典行事の前日
- 会 場／都内ホテル
- 参加人数／約300人



懇談会／岐阜県の例

## 1 基本的な考え方

- 育樹の大切さへの想いを共有し、森づくりへの関心・理解を一層高める機会とするため、参加者による施肥等の育樹活動を行います。式典参加者以外も参加できるものとし、式典行事の概ね1月前に実施します。
- 育樹行事に参加できない式典参加者のため、式典行事において、会場での木を使った活動を検討します。

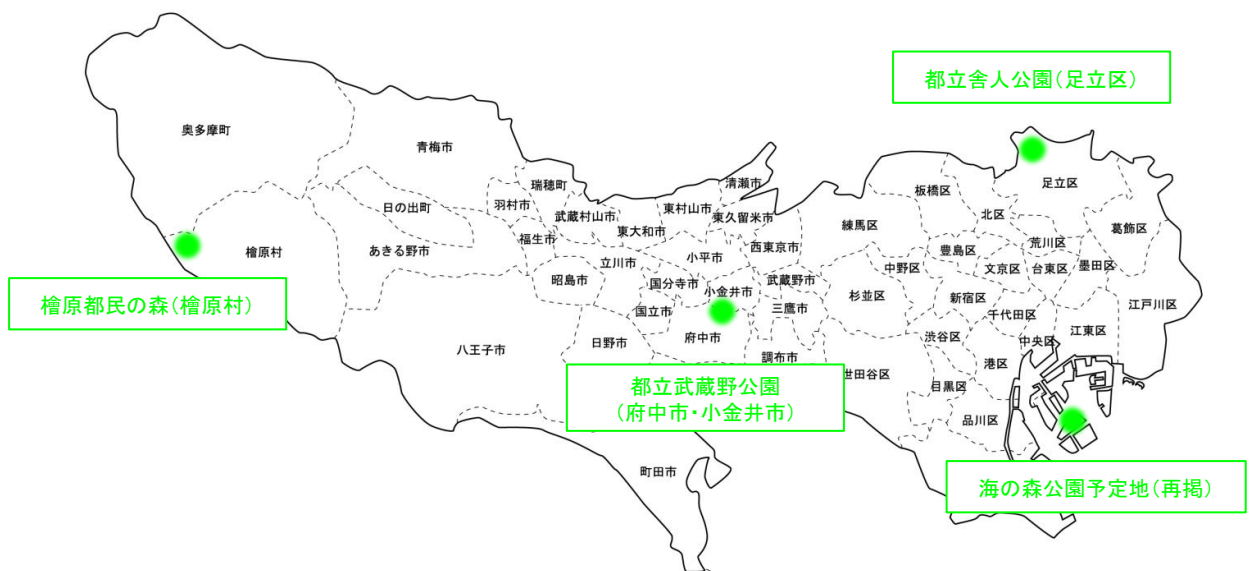
[ 参考 ]

◆ 第39回全国育樹祭（岐阜県）

式典参加者が木の葉のカードにメッセージを記入し、式典会場で「未来の木」に取り付け



## 2 育樹行事の会場



### (1) 檜原都民の森

第47回全国植樹祭では、「山の森」会場として、参加者による記念植樹が行われました。

森林セラピーロードとして認定を受けた「大滝の路」などの遊歩道、木工教室を開催する木材工芸センター等の様々な施設を有しており、都民に利用されています。

場 所／檜原村





### (2) 都立舎人公園

東京にありながら、広がる空と多様な自然が楽しめる、くつろぎの空間です。みどりと水に恵まれた敷地は、現在も順次公園の整備が進められています。

場 所／足立区



### (3) 都立武蔵野公園

野川に沿って残る草原や雑木林を配した、野趣に富んだ公園です。東京都の各公園や街路に植える苗木を育てる<sup>びょうほ</sup>苗圃があり、緑の供給源とも言える公園です。

場 所／府中市、小金井市



### (4) 海の森公園予定地（再掲）

参加者／お手入れ行事に参加する特定参加者等

開催日／お手入れ行事の当日（式典行事の前日）

## 1 育林交流集会

育林交流集会は、都内外の林業関係者はもとより、次代を担う大学生や高校生、ボランティアなど、森林・林業に関心の高い人たちが参加し、森林・林業が直面する課題等をテーマに講演等を行います。

- 主 催／東京都、公益社団法人国土緑化推進機構
- 開 催 日／式典行事の前日
- 開催場所／青梅市総合体育館（青梅市）
- 参加人数／約500人
- 行事内容／基調講演、パネルディスカッション等



育林交流集会／山形県の例

## 2 全国緑の少年団活動発表大会

全国緑の少年団活動発表大会は、全国から選出された緑の少年団や都内の緑の少年団等が集い、日頃の活動状況の発表や情報交換等を通じて、相互の研鑽と交流を図ります。

また、少年団同士の交流を一層深めるため、発表大会終了後、別会場に移動してレクリエーション等を中心とした交流集会を行います。

- 主 催／東京都、公益社団法人国土緑化推進機構
- 開 催 日／式典行事の前日
- 内 容／
  - 活動発表大会
    - ・ 開催場所／八王子市南大沢文化会館（八王子市）
    - ・ 参加人数／約500人
    - ・ 行事内容／都内外の緑の少年団による活動発表、各種表彰等

### ● 交流集会

- ・開催場所／高尾の森わくわくビレッジ（八王子市）
- ・参加人数／約150人
- ・行事内容／都内外の緑の少年団によるレクリエーション等



全国緑の少年団活動発表大会／岐阜県の例



交流集会／京都府の例



### 1 森林・林業・環境機械展示実演会

森林・林業・環境機械の安全使用と機械化による施業の効率化を関係者に一層普及するとともに、一般参加者の関心・理解を高め、担い手を育成する契機とするため、最新の林業機械を中心とした展示・実演を行います。

- 主催／東京都、一般社団法人林業機械化協会
- 開催日／式典行事の当日及び翌日
- 会場／旧都立秋川高等学校跡地（あきる野市）
- 参加人数／約15,000人
- 行事内容／高性能林業機械等の展示実演等



森林・林業・環境機械展示実演会／岐阜県の例



高性能林業機械の実演／京都府の例



チェーンソーパフォーマンス／京都府の例

### 2 その他の記念行事

- 全国育樹祭の開催機運を高めるとともに、都民参加の森づくりや木とのふれあいを進めていくために、広く都民が参加できる記念行事を都内各地で開催します。
- 広報活動と連携しながら、全国育樹祭の開催意義を林業関係者や関係団体等にとどまらず、幅広い都民に普及していきます。

- 東京都緑の少年団交流大会

- ・主 催／東京都、東京緑化推進委員会
- ・開催時期／平成30年1月
- ・会 場／パルテノン多摩（多摩市）
- ・参加人数／約300人
- ・行事内容／都内緑の少年団による活動発表、特別講演等

- 国民参加の森林づくりシンポジウム（1年前記念行事）

- ・主 催／東京都、公益財団法人森林文化協会、朝日新聞社、  
公益社団法人国土緑化推進機構
- ・開催時期／平成29年10月
- ・会 場／木材会館（江東区）
- ・参加人数／約300人
- ・行事内容／基調講演、シンポジウム等

- 各地域で実施する森林・緑化等関連イベント

東京都や実行委員会が主催するイベントのほか、区市町村や関係団体等が実施する関連イベント等を全国育樹祭の記念行事と位置づけ、幅広い都民参加を進めます。

例) 森づくり・林業体験等に関連するイベント

木材利用等に関連するイベント

## 1 基本的な考え方

- 皇族殿下のご臨席のもと、都内外から約5,000人が集う大会であることを踏まえ、安全確保を最優先した運営を行うとともに、不測の事態にも速やかに対応できる体制を整えます。
- 効率的でありながらも、必要な配慮の行き届いたきめ細かい運営を行い、誰もが安心・快適に参加できる大会を実現します。
- 森林・林業関係者をはじめ、次代を担う青少年などが都内外から幅広く参加し、交流できる大会とします。
- 関係する機関、団体等との緊密な連携、協力体制を整えます。

## 2 実施本部計画

円滑な運営を図るための実行組織として、平成30年度に「第42回全国育樹祭東京都実施本部」を設置します。

## 3 参加者計画

区 分	人 数	備 考
都内参加者	約2,500人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都知事（実行委員会会長）の選考による者 都関係者、区市町村関係者、実行委員会委員、森林・林業・木材産業等関係者、諸団体関係者等</li> <li>・ 都知事と公益社団法人国土緑化推進機構理事長との協議による者 省庁関係者、国土緑化推進機構関係者、諸団体関係者等</li> <li>・ 区市町村長の推薦による者 区市町村関係者、森林・林業・木材産業等関係者、諸団体関係者等</li> <li>・ 一般公募</li> </ul>
都外参加者	約1,000人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各道府県知事の推薦による者 道府県関係者、地方緑化推進委員会関係者、森林・林業・木材産業等関係者、諸団体関係者等</li> <li>・ 一般公募</li> </ul>
実施本部員、出演者等	約1,500人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出演団体（アトラクション、緑の少年団等）</li> <li>・ 式典音楽隊（吹奏楽隊、合唱隊等）</li> <li>・ 実施本部員</li> </ul>
合 計	約5,000人	

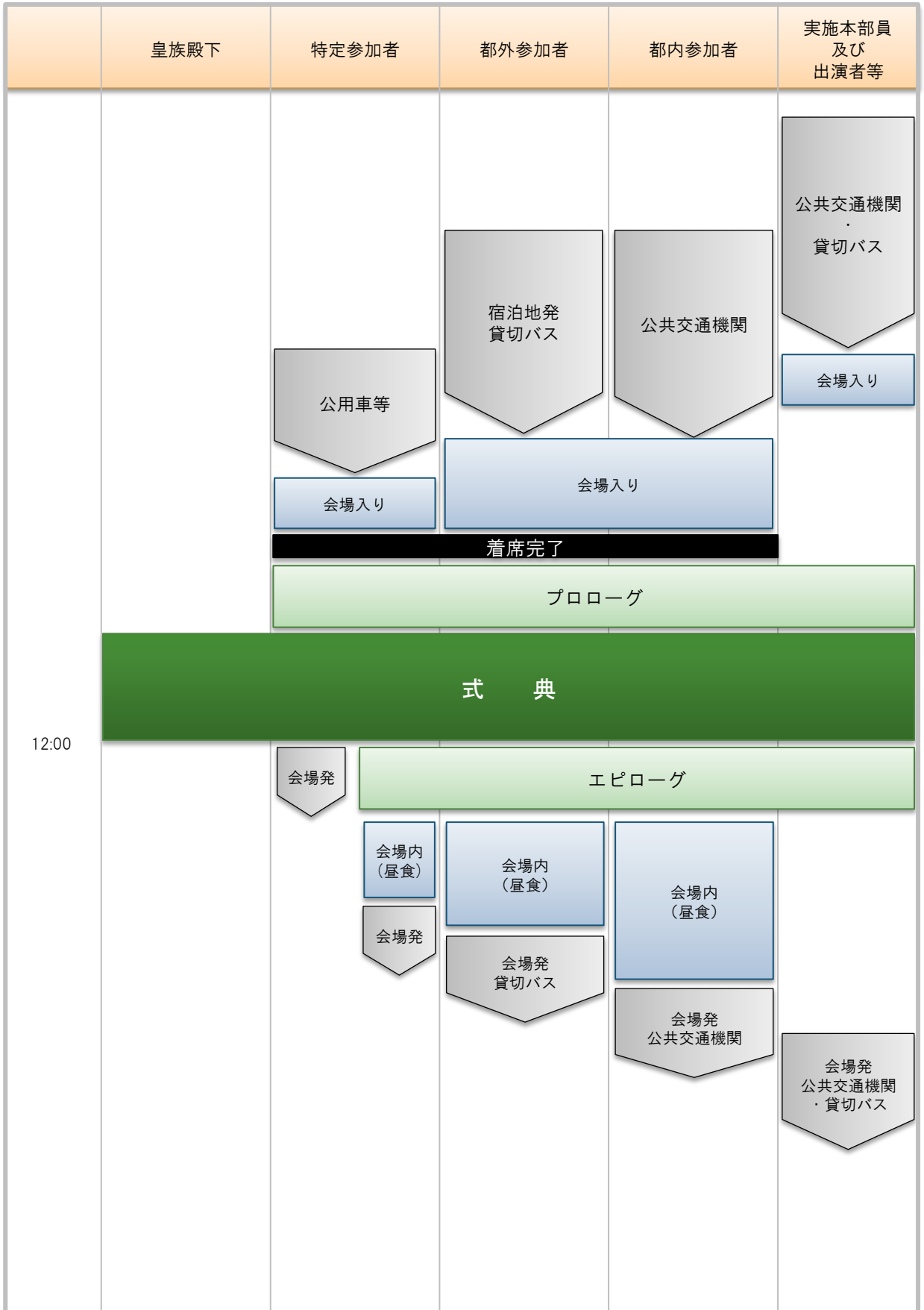
4 参加者行動計画

■ お手入れ行事

	皇族殿下	特定参加者	その他の参加者	実施本部員等
				公共交通機関 会場の最寄駅ほか 集合 貸切バス 会場入り
12:00		公用車等 会場入り 育樹行事	公共交通機関 会場の最寄駅 集合 貸切バス 会場入り	
<b>お手入れ行事</b>				
		会場発	会場発	会場発
18:00	懇談会			

※現時点での想定です。

■ 式典行事



※現時点での想定です。

## 5 受付計画

### (1) 式典行事前日受付

宿泊する参加者については、式典行事前日、宿泊施設にて1回目の受付を行います。

区 分	受付場所	受付時間	受付内容
都外参加者 (宿泊)	宿泊施設	到着時	<ul style="list-style-type: none"> <li>案内状の確認、本人照合</li> <li>ルームキー配布</li> <li>大会用品、記念品の配布</li> <li>宿泊に関する説明</li> <li>翌日の集合時間、場所等の説明</li> </ul>

### (2) 式典行事当日受付

式典行事当日の受付は、宿泊する参加者は各宿泊施設で、都内の参加者は会場にて行います。

区 分	受付場所	受付時間	受付内容
都外参加者 (宿泊あり)	宿泊施設から のバス乗り場	宿泊施設 出発前	<ul style="list-style-type: none"> <li>バス乗車時、名簿と照合</li> <li>IDカードの携行を案内</li> </ul>
都内参加者	会場	入場時	<ul style="list-style-type: none"> <li>案内状の確認、本人照合</li> <li>大会用品、記念品の配布</li> <li>IDカードの携行を案内</li> </ul>

## 6 大会用品・記念品等

- 大会参加者には、識別用グッズ、大会プログラム、記念品等を配布します。
- 記念品の選定にあたっては、東京都らしく、かつ森林・緑の祭典にふさわしい品とするとともに、遠方からの参加者が持ち帰りやすいものとしします。
- 式典会場内への手荷物の持込には制限がかかるため、配布するタイミングを工夫するとともに、事前に十分に説明することで、入場ゲートでの手荷物検査を円滑に行えるようにします。



### 7 宿泊・輸送計画

#### ■ 都外参加者

- 式典前日に、実行委員会が指定する施設に宿泊することを原則とします。
- 式典当日の会場への移動は、実行委員会が手配するバスを利用します。

#### ■ 都内参加者

- 式典当日の会場への移動は、各参加者が公共交通機関を利用することを原則とします。

#### (1) 宿泊

##### ■ 宿泊予定人数

約1,000人（都外参加者）

##### ■ 宿泊予定地

式典会場から移動時間が概ね1時間以内となる地域とします。

##### ■ 宿泊施設での受付・案内

- 宿泊施設ごとに実施本部員を配置し、受付・案内を行います。
- 宿泊施設ごとに宿泊者名簿を作成し、適正に管理します。

##### ■ 緊急時の対応

- 緊急時対応マニュアルを作成し、各宿泊施設に配置した実施本部員等が迅速に初動対応できる仕組みを整えます。
- 各宿泊施設からの情報の一元化を図る体制を構築します。

## (2) 輸 送

### ■ 参加者の輸送方法

行 事	輸 送 方 法
お手入れ行事	指定集合地から、実行委員会が手配するバスを利用して会場へ移動
式典行事	都外参加者 宿泊施設から、実行委員会が手配するバスを利用して会場へ移動
	都内参加者 各参加者が公共交通機関等を利用して会場へ移動 なお、式典会場の最寄駅以外からのシャトルバスの運行を検討

※ 特定参加者等については、別に対応します。

### ■ 輸送管理体制

- バス乗車名簿を作成し、実施本部員による乗車確認を行います。また、実施本部員がバスに乗車し、乗車中の接遇に努めます。
- 情報の一元化を図る体制を構築します。
- バス等の車両誘導については、必要な箇所に交通誘導員を配置し、安全で円滑に誘導します。

### ■ 緊急時の対応

- 事前に非常時連絡体制を整え、バスに同乗する実施本部員に周知徹底します。
- 輸送ルート上の事故に備え、事前に緊急時の代替ルートを設定します。

8 昼食計画

- 都内産農林水産物を豊富に使用し、東京の食の魅力が十分に伝わる献立とします。
- メニューの選定においては、食材、調理方法など事前に十分な検討を行います。
- 弁当の製造、輸送、保管、配布において、徹底した衛生管理を行います。
- 弁当の容器や包装資材については、環境に十分配慮したものを使用します。
- 会場内での昼食は、効率的な配布方法を計画し、配布及び回収時間の短縮を図ります。



山菜炊込みごはん (県産米) 沢あざみ添え (県産沢あざみ)	小鮎の南蛮漬け 茄子の揚げ浸し (県産茄子)	飛騨牛のすき煮
鶏ちゃん焼き (県郷土料理)	黒米ごはん (県産米)	飛騨旨豚のとんかつ 明方ハム
胡瓜の酢の物 (県産胡瓜)	野菜の炊き合わせ (県産大根)	枝豆ごはん (県産枝豆・県産米) 赤カブお漬物 (県産赤カブ)

式典弁当／岐阜県の例

■ 昼食場所

- 式典参加者の昼食は、会場内で弁当を配布し座席で食べていただきます。
- 実施本部員、出演者等は、それぞれ業務に従事する場所での昼食（弁当）とします。

### 9 医療・衛生計画

#### (1) 医療・救護

- 行事当日及びリハーサルにおいて、傷病等の発生に備えるため、医療・救護体制を整えます。
- 式典会場等に救護所を設置し、傷病者の医療救護を行います。救護所には、医薬品や休憩用ベッドを備えます。
- 消防署や近隣医療関係機関の協力を得て、緊急時の搬送態勢を整えます。
- 会場や宿泊施設、輸送時において、傷病等が発生した場合、素早く適切に加療にあたれるよう、医療・救護対応フローを作成します。

#### (2) 衛生対策

- 保健所等の協力を得て、食品衛生や環境衛生について、関係機関と協議を行い、衛生対策体制を整備します。
- 食の安全を期すため、弁当業者や宿泊施設、会場内の食品提供団体等の指導を徹底します。
- 飲食等により発生する廃棄物は適切に処理を行い、会場及び周辺環境美化に努めます。



### 10 消防・防災・警備計画

#### (1) 消防・防災

- 火災、地震等の災害が発生した場合には、参加者の安全確保を最優先とした運営を行います。
- 消防、警視庁、その他関係機関との協力体制を築き、緊密な連携を図ります。
- 特に危機管理については、責任者を明確にするとともに、対応フロー及び避難計画等を作成し、実施本部員に周知徹底します。
- 実施本部が中心となり、異常の早期発見、通報に努めます。
- 会場内は、喫煙所を除いてすべて禁煙とし、必要に応じて消火器を設置します。

#### (2) 警 備

- 会場内での事件・事故を防止し、円滑な運営を図るため、警視庁等関係機関と協力して警備を実施します。
- 警備員や実施本部員などを配置して、警備や車両の整理、参加者の誘導を行います。
- お手入れ会場及び式典会場の入場ゲートでは、金属探知機による持ち物検査や入場者の確認を行います。
- 会場に仮設物等を設置し撤去するまでの間、必要に応じて夜間警備員を配置するなど、無許可者の侵入やいたずらの防止を図ります。

11 リハーサル計画

- 円滑な運営に向けて、実施本部員等への説明会を行うほか、出演者を含めたリハーサルを実施します。
- 効果的な説明会・リハーサルを実施するため、事前に、各班単位の「運営マニュアル」を作成します。
- 運営マニュアルに基づき、各実施本部員が自らの業務内容を把握できるようにします。

区 分	時期(予定)	場 所	参加者	内 容
①出演者説明会	4ヵ月前	未定	出演者代表	式典概要・参加内容説明
②合同説明会	2～3ヵ月前	未定	実施本部員等 出演者代表	式典全体の説明
③式典リハーサル	1～2ヵ月前	式典会場	出演者(介添者) 実施本部員	式典部分のリハーサル
④総合リハーサル		式典会場	実施本部員等 出演者	全体通しリハーサル、 車両・参加者誘導、 接遇研修、非常時訓練他
⑤お手入れリハーサル	開催1週間前	お手入れ会場	実施本部員等 出演者	全体通しリハーサル、 車両・参加者誘導、 接遇研修、非常時訓練他
⑥前日リハーサル	開催前日	式典会場	実施本部員等 出演者	全体通しリハーサル、 車両・参加者誘導、 接遇研修、非常時訓練他

### 12 雨天・荒天時対応計画

#### ■ お手入れ行事

- 雨天の場合は、晴天時と同様に行事を実施します。
- 荒天の場合は、お手入れ行事を中止します。

#### ■ 式典行事

- 屋内会場であるため、雨天の場合だけでなく、荒天の場合にも、晴天時と同様に行事を実施します。ただし、台風が接近した場合等、参加者の安全輸送に支障をきたすおそれがある場合には、プログラムの変更や規模縮小、開催中止を状況に応じて判断します。
- 大規模な地震等の緊急事態が発生した場合、開催を中止します。

#### ■ 判定会議（仮称）

- 荒天の場合における開催の可否等を判定するため、判定会議（仮称）を設置します。
- メンバーの招集方法、大会中止の判断基準等については、ガイドラインを設定します。

### 1 基本的な考え方

- 第42回全国育樹祭開催のPRに加え、東京の森林や身近な緑の大切さ、木の良さや魅力を広く都内外に発信し、開催に向けた機運を高めます。
- 都民が普段の生活の中で木や森林と親しみ、森づくりに積極的に参加する契機となるような広報活動を展開します。

### 2 広報・PR計画

第42回全国育樹祭の開催理念や事業の展開について、広く普及・浸透を図るために、以下の取組を行います。

#### ① 都内イベントとの連携

各地の緑化イベントや育樹活動等を活かして、また都内で開催される様々なイベントと連携しながら、都民に向けた積極的な情報発信を行います。

#### ② インターネットの活用

第42回全国育樹祭の公式ホームページやSNSを開設し、各種イベントや森づくり活動の情報を適時発信します。

#### ③ 公的広報等の活用

広報東京都等の公的広報媒体を有効活用し、広く都民に向けて、きめ細かい情報提供とPR活動を実施します。

#### ④ マスメディアの活用

新聞、ラジオ、テレビ、交通広告等の多様な媒体を活用し、効果的な広報活動を実施します。

#### ⑤ PRグッズの作成・配布

シンボルマーク等を用いた各種PRグッズを作成・配布し、開催の周知と機運の醸成を図ります。

### 3 協賛計画

---

全国育樹祭の開催に賛同する企業・団体等を対象に、物品・役務の提供、広報・PRへの協力等の協賛を広く募集します。

(1) 資金協賛

育樹祭行事の実施に要する資金の提供

(2) 物品協賛

育樹祭行事の実施に要する物品の提供

例) 式典で使用する木製品、スタッフ用衣類、参加者に配布する物品等

(3) その他

役務の提供、広告掲出などによる協力

### 4 記録

---

第42回全国育樹祭の開催記録を保存するために、記録誌と記録映像を制作します。



## 1 基本的な考え方

開催に向け、必要な準備を進めていきます。

## 2 開催準備スケジュール

年 度	準 備 内 容
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>● プレイベントの開催                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 区市町村等と連携した記念行事</li> <li>・ 国民参加の森林づくりシンポジウム【10月】 (1年前記念行事)</li> <li>・ 東京都緑の少年団交流大会【平成30年1月】</li> </ul> </li> <li>● 第41回全国育樹祭(香川県)での引継ぎ【11月】 ⇒ 次期開催地としての引継ぎ挨拶</li> <li>● 開催期日の決定・発表【平成30年1月頃】</li> <li>● 会場の整備</li> </ul>
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 実施計画策定【4月頃】</li> <li>● 一般参加者募集【5月頃】</li> <li>● 全国育樹祭東京都実施本部設置【5月頃】 (本部長：都知事)</li> <li>● リハーサル等開催準備</li> <li>● 会場整備(仮設物設置、装飾等)</li> </ul> <p>◎ <b>第42回全国育樹祭開催</b></p>

## 第42回全国育樹祭 基本計画

平成 29 年 4 月発行

編集・発行：第42回全国育樹祭東京都実行委員会

（東京都産業労働局農林水産部森林課内）

東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号

電話：03-5320-4671